

第 10 章 大型甲殻類

立川 淳也

宮島 尚貴

1	調査概要	409
2	調査方法	410
3	調査結果	410
	(1) 上流から中流域	410
	1) カニ類	410
	2) エビ類	411
	(2) 下流淡水域から汽水域	412
	1) カニ類	412
	2) エビ類	413
	(3) 河口域	413
	1) カニ類	413
	2) エビ類他	415
	(4) 蒲江沿岸の小河川のカニ・エビ類	418
4	考察	426
	(1) 佐伯市の河川に生息する大型甲殻類の生物相	426
	(2) 希少種について	427
	(3) 国外外来種について	428

大型甲殻類（カニ類・エビ類他）

1 調査概要

大型甲殻類は 5 対の脚を持つことから十脚甲殻類とも呼ばれ、エビ類、カニ類、ヤドカリ類等が含まれるが、ヤドカリ類は最後の一对の脚が著しく小さいため 4 対に見える。大型甲殻類は海を起源に繁栄したグループで、河川の淡水域に進出したものは少数である。一生を淡水域で生活するものはさらに少なく、多くは幼生期間を海域で生育して河川に遡上する通し回遊を行い、汽水から河口域にかけて多く生息する。番匠川の河口域は、大潮干潮時になると広大な干潟が出現する他、右岸と左岸で潮間帯の環境が異なり、多様な底質環境が存在し様々な大型甲殻類が見られる。本調査は大型甲殻類のうち、番匠川水系（図 1）と沿岸の小河川で確認できた種その他、蒲江地区深島で記録されたムラサキオカヤドカリについて報告する。尚、番匠川を河川環境のおおまかな変化から、上流域、中流域、下流淡水域、下流汽水域、河口域に分けて（図 2）、その環境で確認できた種について報告する。下流汽水域については、堅田川と木立川の汽水域の記録も含まれている。各環境で記録できた大型甲殻類は（表 1, 2, 3）に記した。

調査は佐伯市自然環境調査研究会の立川淳也、宮島尚貴が勤務する「道の駅やよい番匠おさかな館」が、活動の一環として行っている 2001 年から 2017 の調査記録と採集記録と文献から得られた記録より報告する。



図 1 佐伯市の主要河川



図2 佐伯市の主要河川

2 調査方法

目視観察：陸上観察や素潜りにより、目視で確認した生物を記録した。

採集：素手や漁具を用いて捕獲した後、種の特特定を行なった。捕獲に用いた漁具はタモ網、エビ玉網を用いた他、徒手によって採集した。現地で種の特特定ができないものについては生かしたまま持ち帰り、同定を行なった。

3 調査結果

(1) 上流から中流域

番匠川水系の上・中流域で記録したカニ類、エビ類を表1に記した。上流から中流域は、カニ類は2種、エビ類は4種を確認した。

1) カニ類

上流から中流域は、サワガニとモクズガニを確認した。サワガニは、淡水域で一生を送るカニで、上流から中流域や、山間を流れる小さな細流でも見られる。地域個体群によって青白いものや紫がかったものなど体色に違いが見られる場合があるが、番匠川水系で見られたものは、甲が黒褐色、脚が朱色で最も多く見られる体色である。モクズガニは、上流域では見られなかったが、中流域から河口域では普通に見られた。移動能力が高く、



サワガニ（本匠小川）

支流によっては上流域や砂防ダムの上流側、川から離れた溜池でも見られた。番匠川上流域で確認できなかったのは、因尾から井ノ上にかけて伏流現象により長い区間で川底が干上がることや、落差のある砂防ダムが移動の妨げになっていると考えられる。モクズガニは通し回遊性で、成体は主に秋から冬にかけて川を下り、河口域から沿岸で交尾・産卵する。孵化したゾエア幼生は海域でプランクトンを食べて成長し、メガロパ幼生となって河口域に入り、稚ガニとなって河川を遡上し成長する。上流ほど大型の個体が多く、下流域から汽水域では遡上中の稚ガニが多く見られる。内水面漁業において重要種であり、番匠川水系でも稚ガニの放流が行われている。主にカニ籠を用いて採取されるが、資源保護のため、内水面漁業調整規則により、8月1日から11月30日までが漁の期間と定められている。



モクズガニ（弥生川中）

2) エビ類

番匠川上流域でエビ類は確認できなかったが、中流域ではヌマエビ、ヤマトヌマエビ、ミナミヌマエビ、ヒラテテナガエビが見られた。支流の上流域ではヌマエビや数は少ないがヤマトヌマエビが見られるため、砂防ダムや伏流現象が、移動の妨げになっていると考えられる。ミナミヌマエビは、中流域後半から下流域で見られ、水が緩やかで水生植物が繁茂する環境に多く、下流域や農業用水路にも生息するが、汚濁が進んだ環境では見られない。大卵少産により、稚エビの状態でもふ化することから一生を淡水域で過ごす。ヒラテテナガエビは中流域後半の流れが早い場所を好み、石の隙間に潜んでいる。番匠川に生息するテナガエビ科の中では、最も上流側に生息する。



ヌマエビ（弥生川中）



ヒラテテナガエビ（本匠笠掛）

表 1：番匠川水系 上・中流域の十脚目確認種

分類	科	種 名	上流	中流	生活型	備考
カニ	サワガニ	サワガニ	○	○	淡	
	モクズガニ	モクズガニ	○	○	回	放流有
エビ	ヌマエビ	ヌマエビ	○	○	回	
		ヤマトヌマエビ	○	○	回	
		ミナミヌマエビ		○	淡	
	テナガエビ	ヒラテテナガエビ		○	回	
			4	6		

淡＝純淡水種 回＝通し回遊種

(2) 下流淡水域から汽水域

番匠川水系の下流の淡水域から汽水域で確認したカニ類を表2、エビ類他を表3に記した。下流淡水域は、カニ類 4 種、エビ類 10 種が確認でき、汽水域ではカニ類 13 種、エビ類 8 種を確認した。

1) カニ類

淡水域から汽水域では、クロベンケイガニが護岸やヨシ原に非常に多く生息し、ベンケイガニは少ない。アカテガニは、河川から離れた水域で見られることが多い。アシハラガニ、ハマガニは、河口域が近づくにつれて多くなった。汽水域の川底の砂利や転石には、タイワンヒライソモドキ、ヒメヒライソモドキ、トゲアシヒライソガニモドキ、タイワンオオヒライソガニ、ケフサイソガニ、アリアケモドキ、カワスナガニが見られた。トゲアシヒライソガニモドキは記録が少なく、タイワンオオヒライソガニも番匠川水系では記録が少ないが、蒲江沿岸の小河川ではよく見られた。タイワンオオヒライソガニは第一次佐伯自然環境調査では誤同定によりオオヒライソガニと記載している。ケフサイソガニは汽水域の他、河口域でも見られ、アリアケモドキは礫底以外にもやや泥が混じった場所でも見られた。カワスナガニは小石によく似た姿をしていて、体色は変化に富んでいる。礫ごと採取するとその中に多く見られた。



アカテガニ (佐伯蛇崎)



アシハラガニ (佐伯女島)

2) エビ類

淡水域から汽水域では、ミゾレヌマエビがツルヨシなどの水生植物に多く見られた。その中に、赤茶色の小さなヒメヌマエビが見られることがあるが、非常によく似たコテラヒメヌマエビの可能性もある。トゲナシヌマエビは汽水域で見られたが、記録は少ない。しかし、沿岸の小河川では普通に見られた。テナガエビ科は下流から汽水域にかけてミナミテナガエビが多く見られた。よく似たテナガエビも見られたが、ミナミテナガエビと比べると少ない傾向にある。



ミナミテナガエビ(佐伯汐月)

スジエビは下流域や水路で見られたが、スジエビの中に中国原産の外来種、チュウゴクスジエビが含まれていたことが 2014 年に分かった。スジエビと非常によく似るが、頭胸甲の模様の違いにより判別することができる。長谷、蛇崎、須留木、女島の水路で多く確認したのは、チュウゴクスジエビであったことから、スジエビは番匠川水系の限られた範囲でしか確認できていない。また、長谷、蛇崎、女島の水路には北アメリカ原産の外来種、アメリカザリガニも見られた。汽水域後半から河口にかけては、スジエビモドキやヨシエビ、稀にウシエビが見られることがあった。

(3) 河口域

番匠川水系の河口域で確認したカニ類を表 2、エビ類他を表 3 に記す。河口域ではカニ類 43 種、エビ類 13 種、アナジャコ類 2 種、アナエビ類 2 種、異尾類 1 種、ヤドカリ類 1 種を確認した。

1) カニ類

河口域は大潮干潮時に左岸から川幅の半分近くが干出し、広大な干潟が出現する他、右岸側でも小規模な干潟が所々に点在する。干潟には泥、砂泥、砂の底質環境があり、非常に多くのカニ類を確認した。



番匠川河口左岸(女島)

左岸側は、護岸に沿って大きなヨシ原が形成される。ヨシ原とその周辺にはアシハラガニが最も多く、よく似たヒメアシハラガニも見られた。ヨシ原の中ではユビアカベンケイガニ、

ハマガニなどが生息し、ヨシ原と干潟の境、高潮線付近の砂底にはハクセンシオマネキが巣穴を掘って生息し個体数も多い。シオマネキはヨシ原と干潟の境付近の少し硬めの泥底で見られるが、個体数は少ない。干潮時の砂泥底にはチゴガニが多く、砂底にはコ

メツキガニが多く見られ、砂から有機物を濾し取った後にできる無数の砂団子が散らばる。オサガニ科は、3種が干潟に生息するが、底質環境によって棲み分けを行っていた。最も多いのがヒメヤマトオサガニで、泥底に高密度で生息し、よく似たヤマトオサガニが同所で見られるが、より軟泥質を好み、ヒメヤマトオサガニに比べて少ない。オサガニは砂泥底で見られるが、個体数が少なかった。泥底には、ムツハリアケガニが見られるが少ない。砂底にできる潮溜まりにはマメコブシガニが多く見られた。トリウミアカイソモドキは砂泥を掘ると、ヨコヤアナジャコやスナモグリの巣穴から見つかることがあった。女島の第2樋門周辺は護岸ブロックが並び、カキ類が多く付着し、川底にはカキ殻が堆積する。その周辺ではタカノケフサイソガニ、タイワンガザミ、イシガニが生息する他、ノコギリガザミ類は3種を確認したが、トゲノコギリガザミが多く確認できた。また、カキ殻を掬って見るとチゴイワガニやオキナワヤワラガニが見られた。



ヒメヤマトオサガニ(佐伯灘)



ヤマトオサガニ(佐伯灘)



オサガニ(佐伯灘)



ハクセンシオマネキ(佐伯女島)



チゴガニ(佐伯灘)



コメツキガニ(佐伯灘)

河口の終わり、西浜から東浜にかけては砂浜海岸が形成され、高潮線付近にスナガニが巣穴を掘って生息していた。潮下帯付近ではキンセンガニが砂に潜って生息していた。

右岸側は、水深が深い場所が多く、護岸沿いにヨシ原は形成しないが、干潮時に小規模な干潟が点在し、左岸同様の干潟に生息するカニが見られた。特に上灘地区では、堤内地に干潟ができ、ヒメヤマトオサガニが高い密度で生息していた。周辺の石積擁壁にはフタバカクガニが多く見られた。クシテガニは記録があるが少ない。右岸側の後半は森林と隣接した磯海岸に似た環境があり、潮間帯にはカクベンケイガニ、イソガニ、ヒライソガニ、ヒメアカイソガニ、オウギガニ、マキトラノオガニが見られた。



スナガニ（佐伯西浜）



番匠川河口左岸（東灘）

2) エビ類他

河口域の広い範囲でスジエビモドキとユビナガスジエビが見られた。右岸の河口域後半ではアシナガスジエビやイソスジエビが見られ、ホンダワラが繁茂する環境には、コシマガリモエビが多かった。クルマエビ科は4種が確認でき、クルマエビ、フトミゾエビ、ウシエビ、ヨシエビが見られたが、ヨシエビを除き、若い個体が多かった。クルマエビは、



番匠川河口左岸（女島）

放流されている。テッポウエビは砂泥底の巣穴や岩の下に生息しており、スジハゼ類と共生していることがあった。セジロムラサキエビは、テッポウエビの仲間だが、砂泥底にある転石の下から見つけることがあった。砂泥底の表面にはエビジャコ属の一種が多く見られた。その他、砂泥質の干潟にはユビナガホンヤドカリが多く、同所に多く生息するホソウミニナの貝殻を背負っているのが見られた。砂泥中にはニホンスナモグリ、ハルマンスナモグリ、ハサミシャコエビ、ヨコヤアナジャコが巣穴を掘って生息していた。イソカニダマシは、右岸の磯海岸の岩場で見られた。

表 2：番匠川水系 下流域から河口域で確認したカニ類

分類	科	種 名	下 流		河口	生活型	備考		
			淡水	汽水					
カニ	コブシガニ	マメコブシガニ			○	汽・海			
	ヤワラガニ	オキナワヤワラガニ			○	汽・海			
	ワタリガニ	タイワンガザミ			○	汽・海			
		イシガニ			○	汽・海			
		ミナミベニツケガニ			○	汽・海			
		アカテノコギリガザミ			○	汽・海			
		トゲノコギリガザミ			○	汽・海			
		アミメノコギリガザミ			○	汽・海			
		オウギガニ	オウギガニ			○	汽・海		
			シワオウギガニ			○	汽・海		
	キンセンガニ	キンセンガニ			○	汽・海			
	ケブカガニ	マキトラノオガニ			○	汽・海			
	モクズガニ	タイワンヒライソモドキ			○	○	汽・海		
		ヒメヒライソモドキ			○	○	汽・海		
		トゲアシヒライソガニモド			○	○	汽・海		
		モクズガニ	○	○	○	○	回		
		タイワンオオヒライソガニ			○	○	回		
		イソガニ			○		汽・海		
		ケフサイソガニ		○	○		汽・海		
		タカノケフサイソガニ			○		汽・海		
		ヒライソガニ			○		汽・海		
		ハマガニ		○	○		回		
		アシハラガニ		○	○		回		
		ヒメアシハラガニ			○		汽・海		
		ミナミアシハラガニ			○		汽・海		
		ヒメアカイソガニ			○		汽・海		
		ベンケイガニ	アカテガニ	○	○	○		回	
			クロベンケイガニ	○	○	○		回	
	クシテガニ				○		汽・海		
	カクベンケイガニ				○		汽・海		
	ユビアカベンケイガニ				○		汽・海		
	フタバカクガニ				○		汽・海		
	ベンケイガニ		○	○	○		回		
	スナガニ		スナガニ			○		汽・海	
		ハクセンシオマネキ			○		汽・海		
		シオマネキ			○		汽・海		
	コメツキガニ	チゴガニ			○		汽・海		
		コメツキオガニ			○		汽・海		
	オサガニ	オサガニ			○		汽・海		
		ヤマトオサガニ			○		汽・海		
		ヒメヤマトオサガニ			○		汽・海		
	イワガニ	チゴイワガニ			○		汽・海		
	ムツハアリア ガニ	ムツハアリアケガニ			○		汽・海		
		アリアケモドキ		○			汽・海		
		カワスナガニ		○			汽・海		
			4	13	43				

回＝通し回遊種 汽・海＝汽水性または海水性

表 3：番匠川水系 下流域から河口域で確認したエビ類他

	科	種 名	下流		河口	生活型	備考
			淡水	汽水			
エビ	クルマエビ	ヨシエビ			○	汽・海	
		クルマエビ			○	汽・海	放流有
		フトミゾエビ			○	汽・海	
		ウシエビ			○	汽・海	
	ヌマエビ	ミゾレヌマエビ	○	○		回	
		ヒメヌマエビ または コテラヒメヌマエビ	○	○		回	
		トゲナシヌマエビ	○	○		回	
		ミナミヌマエビ	○			淡	
	テッポウエビ	テッポウエビ			○	汽・海	
		イソテッポウエビ			○	汽・海	
		セジロムサラキエビ			○	汽・海	
	モエビ科	コシマガリモエビ				汽・海	
	テナガエビ	ミナミテナガエビ	○	○		回	
		テナガエビ	○	○		回	
		ユビナガスジエビ			○	汽・海	
		アシナガスジエビ			○	汽・海	
		イソスジエビ			○	汽・海	
		スジエビ	○			淡	
		スジエビモドキ	○	○	○	汽・海	
		チュウゴクスジエビ	○	○		淡	国外外来種
	エビジャコ	エビジャコ属の一種			○	汽・海	
	アメリカザリガ	アメリカザリガニ	○	○		淡	国外外来種
アナ ジャコ	ハサミシャコエ	ハサミシャコエビ			○	汽・海	
	スナモグリ	ハルマンズナモグリ			○	汽・海	
		ニホンスナモグリ			○	汽・海	
	アナジャコ	ヨコヤアナジャコ			○	汽・海	
ヤドカリ	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ			○	汽・海	
	カニダマシ	イソカニダマシ			○	汽・海	
			10	8	18		

淡＝純淡水種 回＝通し回遊種 汽・海＝汽水性または海水性



上灘にできる干潟、ヒメヤマトオサガニが多く生息する

(4) 蒲江沿岸の小河川のカニ・エビ類

沿岸にある距離の短い小河川は、番匠川のように上流から河口といった環境の変化は見られず、上流域から中流域の環境を維持したまま海に注いでいる。

蒲江の丸市尾浦の芹川や葛原浦の大内川では、カニ類はタイワンオオヒライソガニ、モクズガニ、タイワンヒライソモドキ、ケフサイソガニが確認でき、エビ類はヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、トゲナシヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヒメヌマエビまたはコテラヒメヌマエビ、ミナミヌマエビを確認した。ヒラテテナガエビやミナミテナガエビは幼体が多く見られ、番匠川水系ではあまり採集できていないタイワンオオヒライソガニ、ヤマトヌマエビ、トゲナシヌマエビを多く確認した。



蒲江名護屋小学校裏を流れる芹川

○深島に生息するムラサキオカヤドカリ

蒲江港より南に 9km 沖にある深島では、国の天然記念物に指定されるムラサキオカヤドカリを確認した。大分県では絶滅危惧種ⅠA（近い将来における絶滅の危険性が高い種）に指定されている。2009 年 7 月の調査では、夜間の海岸で確認できたのは 3 個体のみであった。

オカヤドカリの仲間は、卵から孵化したゾエア幼生を海中に放し、海域で成長した後に



ムラサキオカヤドカリ（蒲江深島）

上陸する。主に南西諸島と小笠原諸島に分布するが、深島周辺はサンゴの群落や亜熱帯性の魚種が多く見られることから、南からの暖流、黒潮によって幼生が運ばれ、深島に上陸したと考えられ、繁殖に寄与しない無効分散と思われる。

オカヤドカリの仲間は全てが天然記念物に指定され捕獲が禁止されているが、沖縄県では許可を受けた業者が捕獲したものは飼育が許されている。



佐伯市の河川に生息する大型甲殻類①

1. サワガニ 2. アカテガニ 3. クロベンケイガニ 4. ベンケイガニ 5. フタバカクガニ
 6. カクベケイガニ 7. ユビアカベカベンケイガニ 8. クシテガニ 9. モクズガニ
 10. タイワンオオヒライソガニ 11. ハマガニ 12. アシハラガニ



佐伯市の河川に生息する大型甲殻類②

1. ヒメアシハラガニ 2. ケフサイソガニ 3. タカノケフサイソガニ 4. イソガニ 5. タイワンヒライソガニ 6. ヒメヒライソモドキ 7. トゲアシヒライソガニモドキ 8. ヒメアカイソガニ 9. トリウミアカイソモドキ 10. オウギガニ 11. マキトラノオガニ 12. マメコブシガニ



佐伯市の河川に生息する大型甲殻類③

1. シオマネキ 2. ハクセンシオマネキ 3. スナガニ 4. チゴガニ 5. コメツキガニ 6. オサガニ
 7. ヤマトオサガニ 8. ヒメヤマトオサガニ 9. ムツハアリアケガニ 10. アリアケモドキ
 11. カワスナガニ 12. チゴイワガニ 13. オキナワヤワラガニ

1



2



3



4



5

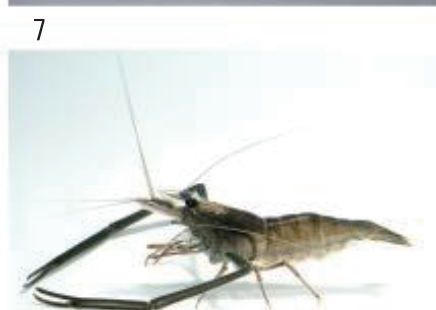
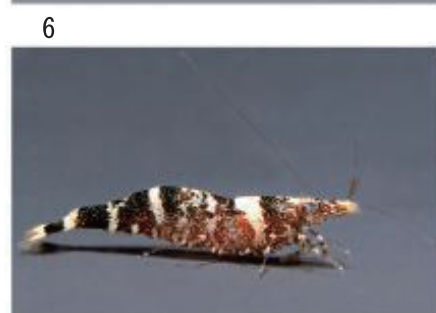
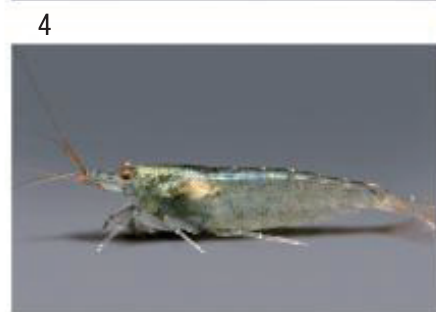
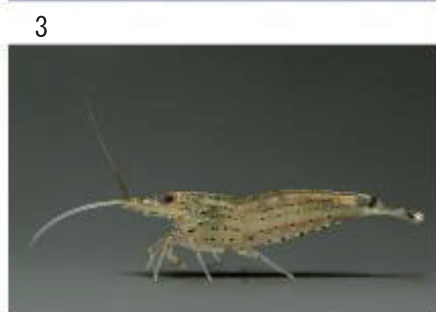


6



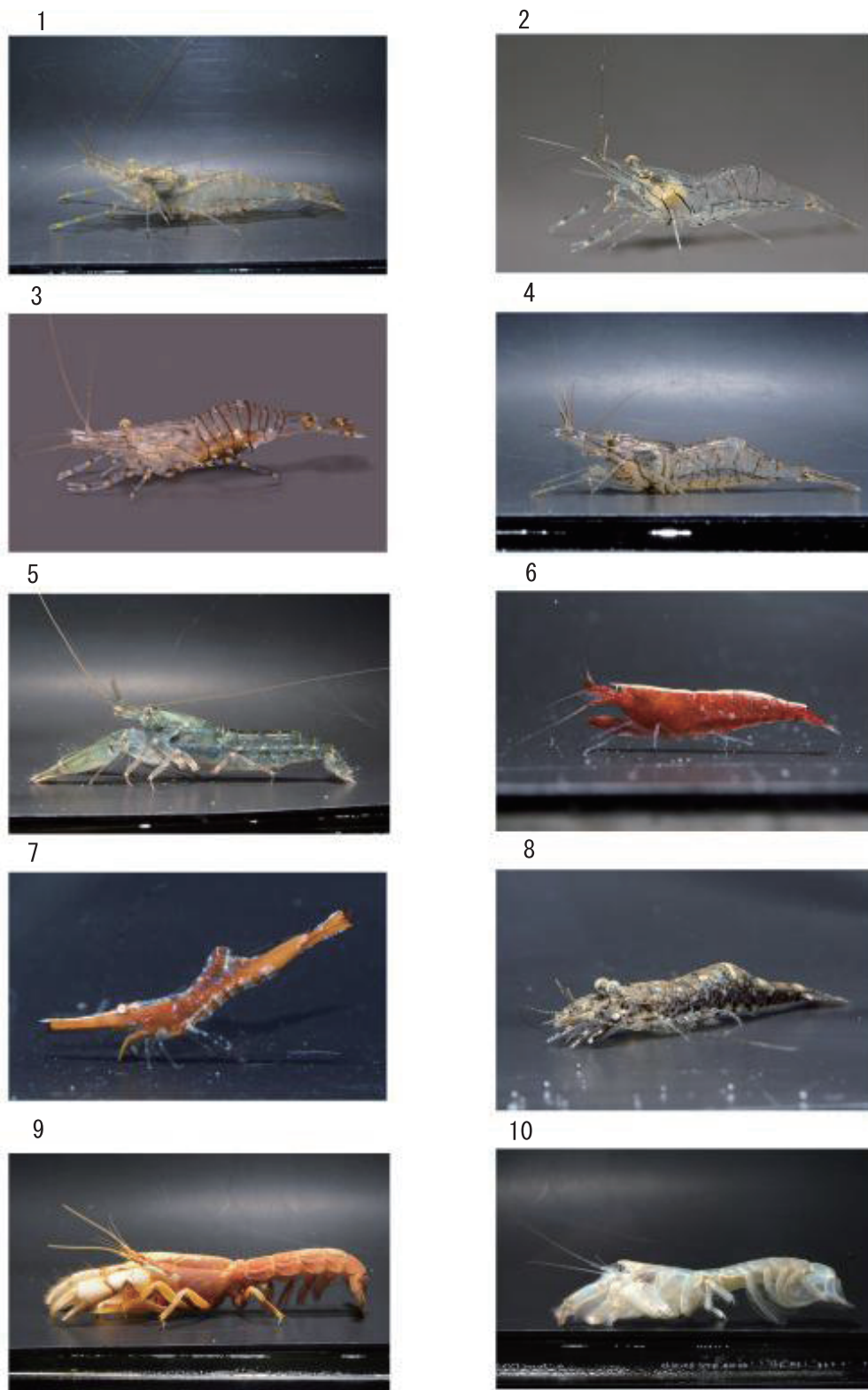
佐伯市の河川に生息する大型甲殻類④

1. ミナミベニツケガニ 2. タイワンガザミ 3. イシガニ 4. トゲノコギリガザミ
5. アカテノコギリガザミ 6. キンセンガニ



佐伯市の河川に生息する大型甲殻類⑤

1. ヌマエビ 2. ミゾレヌマエビ 3. ヤマトヌマエビ 4. トゲナシヌマエビ 5. ミナミヌマエビ
6. ヒメヌマエビまたはコテラヒメヌマエビ 7. ミナミテナガエビ 8. ヒラテテナガエビ
9. テナガエビ 10. ユビナガスジエビ



佐伯市の河川に生息する大型甲殻類⑥

1. スジエビ 2. スジエビモドキ 3. イソスジエビ 4. チュウゴクスジエビ 5. テッポウエビ
 6. セジロムラサキエビ 7. コシマガリモエビ 8. エビジャコの種類 9. ハサミシャコエビ
 10. ヨコヤアナジャコ

1



2



3



4



5



6



7



8



佐伯市の河川生息する大型甲殻類⑦

1. ハルマンスナモグリ 2. アメリカザリガニ 3. ヨシエビ 4. クルマエビ 5. フトミゾエビ
6. ウシエビ 7. ユビナガホンヤドカリ 8. イソカニダマシ

4 考 察

(1) 佐伯市の河川に生息する大型甲殻類の生物相

佐伯市の河川に生息する大型甲殻類は 73 種で、カニ類 45 種、エビ類 22 種（クルマエビ類 4 種を含む）。アナジャコ類 4 種、ヤドカリ類 2 種を確認した。その内、チュウゴクスジエビとアメリカザリガニは国外外来種である。

番匠川水系を環境別に見ると上流域 4 種、中流域 6 種、下流淡水域 13 種、下流汽水域 21 種、河口域 59 種が確認した。番匠川では伏流現象が見られ、川底が長い距離で干上することや砂防ダムの設置により、通し回遊種の遡上を阻害していると考えられ、本流上流域で通し回遊種は確認できなかった。下流汽水域から河口域にかけては非常に多くの種を確認した。河口域は、新佐伯大橋を過ぎると左に緩やかに曲がりながら佐伯湾に流れることから、左岸側には砂州とヨシ原を形成し、大潮干潮になると流心にかけて広大な干潟が現れ、多様な底質環境を有することから、干潟に生息する様々な大型甲殻類を確認した。右岸側の後半は、森林と隣接した磯海岸のような環境があり、左岸とは異なる種が見られる等、番匠川河口は多様な生物相を育む自然環境を有するといえる。河口域堤外地の環境が開発によって今後大きく変化することはないと思われるが、堤内地にも小規模な干潟が存在し、多くの種が生息している。このような堤内地にある干潟は開発の対象になりやすく、埋め立てられる危険があることから保全していく必要がある。

近年、地球温暖化の影響が論議されており、南方種の分布が北上しているという見方もあることから、それらが無効分散し偶発的に出現することも考えられる。また、カニ類では、甲幅 1 cm 程度の種や二枚貝に寄生するカクレガニ科もあり、さらに調査を進めることで種数は増えると思われる。



シオマネキ（佐伯上灘）

(2) 希少種について

佐伯市河川の絶滅危惧種（RDB：レッドデータブック、RL：レッドリスト）

科	種 名	大分県 RDB(2011)	環境省 RL (2017)
ワタリガニ科	アカテノコギリガザミ	情報不足 (DD)	掲載なし
	トゲノコギリガザミ	情報不足 (DD)	掲載なし
	アミメノコギリガザミ	情報不足 (DD)	掲載なし
ケブカガニ	マキトラノオガニ	情報不足 (DD)	掲載なし
モクズガニ	タイワンヒライソモドキ	準 (NT)	掲載なし
	ヒメヒライソモドキ	準 (NT)	掲載なし
	トゲアシヒライソガニモ	Ⅱ (VU)	掲載なし
スナガニ	ハクセンシオマネキ	準 (NT)	Ⅱ (VU)
	シオマネキ	Ⅱ (VU)	Ⅱ (VU)
オサガニ	ヒメヤマトオサガニ	情報不足 (DD)	掲載なし
イワガニ	チゴイワガニ	情報不足 (DD)	掲載なし
ムツハアリアケガ	ムツハアリアケガニ	I A (CR)	掲載なし
	アリアケモドキ	準 (NT)	掲載なし
	カワスナガニ	準 (NT)	準 (NT)
オカヤドカリ科	ムラサキオカヤドカリ	I A (CR)	準 (NT)

絶滅危惧 IA (CR)	ごく近い将来における絶滅の危険が極めて高い種
絶滅危惧 Ⅱ (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点では絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種

「レッドデータブックおおいた 2011（絶滅の恐れある野生生物）」には番匠川水系の 15 種が該当するが、その内 6 種は情報不足とされる。ムラサキオカヤドカリは国の天然記念物に指定され、県内では深島だけの記録で個体数は少ない。亜熱帯性であることから、南西諸島より黒潮によって幼生が運ばれてきたと考えられる。干潟に生息するカニ類では、ムツハアリアケガニは泥底上で見られるが少ない。シオマネキは泥底干潟と隣接したヨシ原周辺の砂泥で見られたが数えるほどの状態であった。ハクセンシマネキは河口左岸のヨシ原で比較的多くみられた。情報不足とされるヒメヤマトオサガニの個体数は多く、ヤマトオサガニやオサガニの方が少なかった。汽水域の礫底に生息するカニ類はアリアケモドキ、カワスナガニは普通に見られたが、タイワンヒライソモドキ、ヒメヒライソモドキ、トゲアシヒライソモドキは少なかった。しかし、甲幅 1cm 程度であることから、見落としている可能性もあり現状では判断できない。今後、国や県の指定とともに、各地域でどの種が絶滅の度合いが高まっているか把握することが重要である。

(3) 国外外来種について

国外外来種はアメリカザリガニとチュウゴクスジエビの 2 種を確認した。北アメリカ原産のアメリカザリガニは昭和初期にウシガエルの餌として持ち込まれ、その後、食材やペット、生餌、教材といった様々な利用で広がり、全国的に定着している。佐伯市導入の経緯は不明であるが、長谷、蛇崎、女島周辺の用水路で見られる。

チュウゴクスジエビは、中国、ミャンマー、シベリア南東部、サハリンから知られる淡水エビである。在来種のスジエビと酷似するが、頭胸甲の縞模様がやや異なることで区別できる。(図3) 第一次佐伯自然環境調査報告書ではスジエビとして記録したが、2014年にチュウゴクスジエビであることが分かった。スジエビは生息地によって縞模様の太さが異なることが誤同定へと繋がった。チュウゴクスジエビは長谷、女島、須留木、蛇崎の用水路で多く確認した。国内の侵入経路としては、釣りの生き餌として持ち込まれたことが有力であり、そこから野外に放されたと考えられる。日本国内で相次いで確認されており、分布の拡大が懸念される。

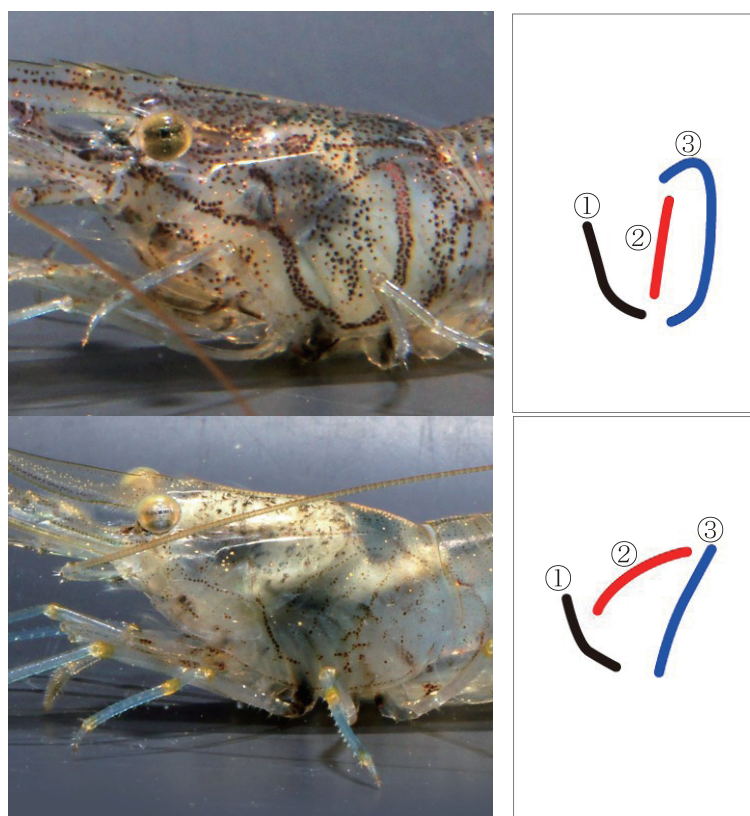


図3. 頭胸甲の模様の違い

上：チュウゴクスジエビ 下：スジエビ

<参考文献>

秦香織・石田淳・松尾敏生・三浦知之. 2010 : 大分県初記録種を含む番匠川感潮域における十脚甲殻類の採集記録. 南紀生物, 50 (2) 143 - 148

大貫貴清・宮島尚貴・立川淳也・今井正. 2017 : 大分県佐伯市で確認された淡水性テナガエビ亜科の移入種. Bungoensis, 2 : 63-66.

Jiuan -Jiuan HWANG and Masatsune Takeda. 1986 : A New Freshwater Crab of the Family Grapsidae from Taiwan. Proc.Soc. japan. syst. Zool., No. 33 : 11-18

Tadashi Imai and Takakiyo Oonuki. 2014: Records of Chinese grass shrimp, *Palaemonetes sinensis* (Sollaud, 1911) from western Japan and simple differentiation method with native freshwater shrimp, *Palaemon paucidens* De Haan, 1844 using eye size And carapace color pattern : BioInvasions Records Volume 3, Issue 3:163-168

三浦 知之 2008 : 干潟の生きもの図鑑 南方新社

三宅 貞祥 1982 : 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅰ) 保育者

三宅 貞祥 1982 : 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ) 保育者

環境省(2017) レッドリスト 2017. 『<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105449.pdf>』
(2017年12月現在)

大分県(2011) レッドデータブックおおいた 2011, 陸・淡水産貝類一覧.

『<http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/12/index.html>』(2017年12月現在)

